

# 古本屋に勤めていた頃 ―古本と詩と今―

～トークと朗読～

出演 **季村敏夫** (インタビュアー 大西隆志)

日時 2026 年 1 月 11 日 (日) ●16 時開場／●16 時 30 分開演

場所 あまかわ文庫 (兵庫県姫路市忍町 24 2 階)

参加費 1500 円 ※当日お支払いください。

予約方法 Mail [amakawabunko@gmail.com](mailto:amakawabunko@gmail.com) TEL 090-5090-2130 X/Instagram(@amakawa\_bunko) の DM  
にご連絡ください。



季村敏夫 (きむら・としお)

詩人。1948 年京都市に生まれ、神戸市長田区で育つ。阪神・淡路大震災をテーマにした『日々の、すみか』(1996、書肆山田刊)がある。また共編著に『生者と死者のほとり―阪神大震災・記憶のために試み』(1997、人文書院)。

2003 年に詩人の瀧克則、装幀家の間村俊一らと文芸雑誌「たまや」を創刊。

2004 年に出た詩集『木端微塵』(書肆山田刊)で5回山本健吉文学賞受賞。

2011 年には詩集『ノミトビヒヨシマルの独言』(書肆山田刊)で第 29 回現代詩花椿賞受賞。現代詩史の再検討を迫った『山上の蜘蛛―神戸モダニズムと海港都市ノート』(2009、みずのわ出版)、『窓の微風―モダニズム詩断片』(2010、みずのわ出版)もある。『一九三〇年代モダニズム詩集―矢向季子・隼橋登美子・冬澤弦』(みずのわ出版刊)、『一九二〇年代モダニズム詩集―稲垣足穂と竹中郁その周辺』(思潮社刊)、『カツベン 詩村映二詩文』(みずのわ出版刊)など。季村敏夫個人誌「河口から」(山響堂刊)がある。詩人として多くの詩集を刊行し、傍ら埋もれた詩人の発掘を通して新たな文学史を探求、提示しようとする。昨年これらの実績で「井植文化賞」を受賞。その他には、詩の朗読を行い、CD『生かされる場所』を野生のギタリスト澤和幸と共に出す。もう一枚、ジャズピアニストの板橋文夫との『神戸・祈り』も素晴らしい仕事だ。



←[あまかわ文庫リンクページ](#)